※令和４年度以降入学生用

学校番号	101

令和５年度　公民科

教科	公民科	科目	公共（抽出）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『高等学校 公民』　（教育図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

●抽出授業は下記の学習方法、目標に準じるが、日本語指導が必要であることを踏まえ、個人に応じて調整する。また各単元を学習する際には、日本で生活する際の基本的な日本社会についての知識を学ぶ機会を設ける。
公共では、日本および国際社会の現状を理解し、諸課題について考察することによって、自らの考えを形成するための授業です。基本的な知識を身につけ、自分の意見を表現するとともに他人の意見を聞くことによって公正な判断力が養われます。したがって、積極的・主体的な授業参加が求められます。

2　学習の到達目標

【①知識・技能】学習を通じて，現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につける。
【②思考・判断・表現】課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身に付けることを目指す。社会課題に対する見方，考え方はさまざまあり多面的であることを重視し，その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて，合意形成を目指す，公共的存在としての能力を養う。
【③主体的に学習に取り組む態度】さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定し、主体的，対話的な授業を通し，生徒が社会参画者であることの自覚を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけ、課題の解決のために必要なアプローチ方法を確立できているか。	○現代社会の諸課題の解決のために主体的に考え判断し、社会課題に対する見方，考え方はさまざまあり多面的であることを重視し，対話を通じて，合意形成をめざす，公共的存在としての表現ができるか。	○現代社会の仕組みや課題について関心を高め、意欲的に追及しているか。 ○日々の授業のプリントや、知識・思考などの問題に対し、積極的に取り組み、自らの学習状況を把握し、自己評価を行い、改善への学習の調整をおこなっているか

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	公共の扉	1. 人は一人では生きられない 2. 人はどのようにつながるのか 3. 自由と正義の実現を目指して 4. 対話から生まれる公共 5. 日本の公共思想 6. 功利主義と義務論 7. 水俣病を考える 8. 地球温暖化問題 9. 誰が医療を支えるのか 10. 生徒会予算をどう分配するか 11. 意見が分かれたときにどう決めるか 12. 民主政治の歴史 13. 日本国憲法の三つの原理 14. 基本的人権の尊重 15. 平等・自由・義務″ 16. 大学入試と男女差別 17. なぜ女性医師が日本では少ないのか表現の自由とヘイトスピーチ	a:自分自身が公共的空間の主体となり，自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくこと、選択・判断の手がかりとして功利主義，義務論などの考え方に、個人の尊重，民主主義，法の支配，自由と責任など公共的空間における基本原理について理解する。″ b:地域社会などのさまざまな集団の一員として生き，他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることにういて多面的・多角的に考察し，表現すること。 c:よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。また、内容に興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	・定期考査 ・小テスト ・ワーク	・定期考査 ・授業プリントの考察ワーク	・学習状況 ・プリントの振り返りや自己評価

※令和４年度以降入学生用

２学期	現代社会の諸課題	1. 法と社会 2. 多様な契約 3. 消費者の権利と責 4. 日本の司法制度 5. 国民の司法参加″ 6. 選挙と政治参加 7. 公正な世論の形成 8. 国会と内閣 9. 地方自治 10. 国家主権と領土 11. 安全保障と防衛 12. 21 世紀の世界情勢 13. 国際社会と日本 14. 職業選択 15. 雇用と労働 16. 労働者の権利 17. 財政の役割 18. 租税の仕組みと国債 19. 少子化と社会保障 20. 市場経済の役割と限界 21. 金融のはたらき 22. 日本銀行と金融政策 23. グローバル化と経済統合 24. 格差是正と多文化主義	a:法，政治，経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識，技能を身につけることができている。 b:法，政治，経済を関連させ，自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，その主題解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現することができる。 c: よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めることができている。また、内容に興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	・定期考査 ・小テスト ・ワーク	・定期考査 ・授業プリントの考 察 ワーク	・学習状況 ・プリントの振り返りや自己評価
３学期	持続可能な社会家	社会研究の方法 1 演劇で表現する 2 地域社会と共に学ぶ 3 バリアフリー社会の実現を目指して 4 SDGs実現のために私たちができること″	a: １～４の高校の実践例を参考にして，社会課題の調査，表現方法，課題解決に向けた協働の方法などについて学習している。 b:公共で学習した内容や課題をもとに見方・考え方をはたらかせ，具体的な社会課題を見出し，これを適切に表現している。 c:			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度